

日南町お役立ちガイド

交通	
●JR生山駅	82-0018
●日南町営バス(バスターミナル)	090-2006-5058
●日南交通(タクシー)	82-0801
●JR上石見駅	83-1140
レンタカー	
●日南観光トラベル	87-0250
レンタサイクル	
●長谷部モータース	82-0021

お食事	
駅前食堂 にしむら屋 (生山)	77-1000
蓬萊 中国料理店 (生山)	82-0007
グランド食堂 (生山)	82-1527
料理 水川 (生山)	82-6030
コミュニティカフェ 一歩 (生山)	77-3200
割烹 いだに (霞)	82-0050
御食事処 一福 〈要予約〉(霞)	82-0180
いなかのパン屋さん (日南町総合文化センター内)	82-0087
きっちんピエロ (霞)	82-0073
Cafe「あお」(霞)	82-1360
ホームランド多里 (多里)	84-0246
亀食堂 (湯河)	84-0531
喜乃屋食堂 (湯河)	84-0658
焼肉 案山子 (湯河)	84-0634
そば処かめや 〈要予約〉(下石見)	83-0238
にちなん高原の駅 (上石見)	83-1140
ふるさと日南邑「ファームイン」(神戸上)	83-1188
ゆきんこ村「四季彩」(下阿毘緑)	87-0431
ときわすれ清水屋(そば) (菅沢)	87-0006

宿泊	
鉱泉館 (生山)	82-1333
深津旅館 (生山)	82-0057
井谷旅館 (霞)	82-0050
イチイ荘 (霞)	82-0073
日南邑 (神戸上)	83-1188
ゆきんこ村「四季彩」(下阿毘緑)	87-0431

体験型農家民泊	
古民家かつみや (菅沢)	87-0304
ときわすれ清水屋 (菅沢)	87-0006

キャンプ場	
YMCA呼子キャンプ場 (菅沢)	87-0156
オートキャンプあびれ (下阿毘緑)	87-0010
大正山オートキャンプ場 (笠木)	82-1448
出立山キャンプ場日南 (湯河)	82-1115

体験する	
つくし工房 (印賀)	87-0337
印賀窯 (印賀)	87-0170

日南町 源流観光 マップ



■ にちなんの森に棲む希少動植物 ■



サクラノソウ

ゲンジボタルなどとは違い、杉・檜林などに発生する陸棲ホタル。「チカッチカツ」と短く光る、その様子はまるで森のイルミネーション。



オオサンショウウオ

山地や河畔の野原に群生する多年草。サクラの花びらに似ていることからその名がついた。



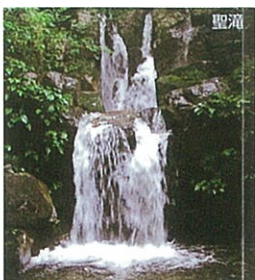
ヒメボタル

この地方では「ハンザケ」などと呼ばれ、大きな口にはヤスリのような歯が並び、日が落ちると小魚やサワガニなどを求めて川底を歩き回る。国の特別天然記念物。

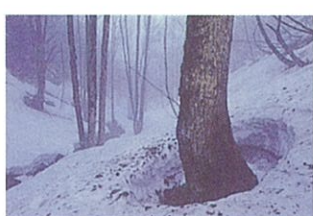
木々の葉も褐色になり落ち葉になると森は冬の季節の始まりを告げます。最初の雪が天から舞い降り、はじめる、やがて一面を白く覆い、音や時をも包み込んだ深い静寂が訪れます。時を経てたくわえられた雪は、春の暖かい日差しとともに雪解け水となつて、再び活動を始める森の生命に多くの恵みを与えます。



日南町は、標高二八〇メートルから六〇〇メートルの間に大部分の集落と耕地が集まり、三四〇〇〇畧という広大な面積のうち山林が八九二%を占める森林に包まれた町です。四季の織りなす季節の移ろいは、森のさまざまな彩りや薫りを運び、私たちを楽しませてくれます。春には新しい葉っぱ、新しい花、すべての息吹から吹く風がやさしく頬をなでます。木立の中では、まばゆい初夏の陽射しが木漏れ陽へと変わり、陰影のコントラストは静寂さをもち、水しぶきをあげる滝つぼや溪流は気分を穏やかにしてくれます。天高く大空が広がる頃には、色づく木の葉、暖かい陽光、虫たちの声、そして咲き乱れる野の花が色無き風をやさしく染め上げます。



にちなんの森



神々が棲むと謳われるこの森には、絶滅の危機に瀕しながらも生き続けるさまざまな植物や動物が、今もひっそりと息づいています。その美しさ、珍しさから採集乱獲されることも少なくないようですが、この地の自然環境のなかで見る姿こそ素敵なものだと思っています。「トル」のは写真だけにしてください。

鎮守の森に潜む生命

観光に関するお問い合わせは

平日：(0859)82-1115
日南町観光協会
土・日・祝日：(0859)83-1188
ふるさとにちなん邑
ファームイン

H26.1 発行

発行：日南町観光協会

〒689-5292
鳥取県日野郡日南町霞800番地
日南町役場内
Tel (0859) 82-1115
Fax (0859) 82-1478
<http://www.town.nichinan.tottori.jp/>
E-mail info@town.nichinan.tottori.jp

米と暖かい日南町



ヤマタノオロチになぞらえた川
古来より人の営みは川によって支えられてきました。この町に天からふりそがれる水のひとしずくは、川を伝い大海へと流れ、大いなる恵みと安らぎを、ときに厳しさを与えてくれ、山と海を、人と人とを紡いでいます。
ヤマタノオロチ神話。この川は「オロチ」に幾度かなぞらえられました。8つの頭と尾を持ち、背中には杉や檜が生え、腹は血で爛れており、と語られるオロチは水を支配する龍神を、「クシナダヒメ」は稲田を表していると言われていいます。
神話の中で、オロチが毎年娘をさらうのは河川の氾濫を、それが退治されたことは、治水を象徴しています。
オロチの腹が血で爛れているのは、映画「もののけ姫」でもおなじみの製鉄法「たたら」で必要な砂鉄を採取するために行う「鉄穴(かん)な流し」で川が濁った様子を、また背中に生えた杉や檜は製鉄には欠かせない燃料となる木炭の供給地であることを表しているとも考えられています。



■当時の鉄穴(かん)な流しの模様



■日本一の品質を誇る幻の鋼「印賀鋼」の生産地でした。